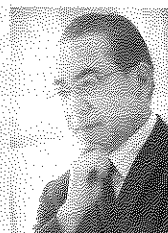


～ 昨日の風 明日の風 ～
**経営コンサルタント
独白録**

【第54回】 過去の延長線上に未来はない！



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、(株)経営改善支援センター(福岡市、URL <http://sien.co.jp/>) 代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

新しい年を迎えました。本年もよろしくお願いいたします。

年末から正月にかけて、2018年に関する様々な予測が発表されていました。そこではいくつかのキーワードが語られていますが、「デジタル・ディスラプション【Digital disruption】」という言葉が印象的でした。デジタル・ディスラプションとは、デジタルテクノロジーによる破壊的創造あるいは破壊的イノベーションと訳されるもので、消費者の欲求を第一に考え、無料のツールを活用・提供し、シンプルな方法で、迅速に商品・サービス・仕組みに創造的破壊を起こすことです。確かに、アマゾンや、ビットコインなどの仮想通貨はまさに破壊的な社会的変化を生み出しています。

組織の中の本当の課題

まず基礎科学があって、応用化学があって、先端技術があります。人類はこうやって文明を進化させ、社会を変えてきました。そしてそれは日々加速しています。しかし、扱うのは人間です。どんなに科学技術が発達したとしても、それを作るのは人間であり使うのも人間です。人間の進歩と科学技術や社会の進歩は必ずしも同じ速度ではありません。よってそこに齟齬(そご)が生じたり、あるいは速度の違いから一時的に対立が生まれたりします。社会や組織の悩みの根源にはこうした普遍的な動きがあり、過去の延長線上に未来はない理由のひとつです。

こうした悩みを解消するには、変えてはならないものと変えていかなければならないものを組織や個人の中で峻別し、丁寧に周知することが大切です。実現には時間とコストがかかりますが、そこで手を抜いてしまえば、ライバルや時代の変化に遅れをとり、最終的に組織が消えていくプロセスしか待っていません。

組織のレベルを一段上げる

「社内教育」のレベルを一段上げる必要はないでしょうか。業界の最先端技術の習得。先進的な取り組みを行っている企業研修。異業種の仕組み。マネジメント技術の強化。社会人・組織人としての再教育。ITや語学の研修。人格形成のための教養研修・・・。

平成30年を迎え、30歳未満の人々はすべて平成生まれになり、組織の中に様々な価値観が共存しています。こうしたものを放置していると、組織のねじれはますます大きくなっていきます。「働き方改革」は否応なしに組織に変化を迫ります。キャッシュレス時代が社会の上流である金融業界の再編を促し、既に多くの金融機関がリストラに動き始めています。消費者のニーズは大きく変化し、「量より質」から「パーソナルなもの」に変わりました。自動車の自動運転は国の規制にもかかわらず急速に進み、テレビ映像はドローンからの風景を当たり前のように映し出します。

従来型からの決別宣言！

福岡市・中洲にある「ドン・キホーテ」のレジ担当はほとんどが中国の人です。日本人は商品を揃えたり、代車で商品を運んでいます。中国人の客が多いので接客は中国人が行い、バックヤード業務を日本人が担当しています。大阪の繁華街では日本語のメニューは後に小さく張り出され、英語表記の看板が道路に大きく並べられています。対馬の看板の多くは、日本語と韓国語表示です。別府で見つけた「工事看板」の表記は、英語と中国語と韓国語と日本語でした。各地で、外国資本が日本の資産を買い漁っています。こうした情報は待っているだけでは手に入らず、個人や組織が意識的に行わなければ気づかないものです。

事業計画の組み上げにあたり、地域性や業界特性を踏まえた上で【前がかりの人材育成】が重要になっています。